

小倉山通信

平成27年6月18日
No.11

いよいよ明日から都市総体

平成27年度大曲仙北中学校総合体育大会が、明日から3日間の日程で、各会場で行われます。選手の皆さんは、この日のために、練習試合を重ね、毎日夕方遅くまで集中しながら練習に取り組んできました。

壮行式でもお話しましたが、次の3点を心に留めて試合に臨んでいただければありがたいです。

① イメージを大事にする。

寝る前に、明日の試合についてのイメージを描きます。普段練習している力が発揮されるには、予想した試合展開になったときに、自分がどのような動きをするかです。そして、今までの練習や試合の中で、一番よかったシーンを常に思い描いておけば、ベストの力が発揮されます。イメージは大切です。

② 声を出して最後まであきらめない。

応援する側も、試合に臨んでいる選手も一体となって声を出すこと、そして、どんな場面になってもあきらめない、意欲を全面に出すことです。このことは相手の選手にとって非常に驚異です。まだあきらめていないのか、まだやる気があるのか、と思われることがこちらに有利に働きます。応援がどれほど人を勇気づけるか、それは、応援されたことがある人は身体にしみていると思います。苦しくなったら声をさらに大きく出そう。合い言葉です。

③ 力を発揮するには、上半身リラックスで。

がんばろうとして無理な態勢から力任せに動いても、物事はうまくいきません。いつものスイング、いつもやっている動作、これが自然に出て初めて結果につながります。下半身は力を十分に入れて、上半身の力は抜いて普段通りの所作をすることがとても大切です。これを人は「平常心」と呼びます。緊張の中にも「平常心」で臨むことが大切です。

以上、個人競技も団体競技も、選手と監督が一体となって試合に臨むことを期待したいと思います。

壮行式 限界突破！

5月17日(水)、生徒会執行部並びに文化部の皆さんが、大曲仙北中学校総合体育大会に出場する選手のために、目の覚めるような壮行式を開いてくれました。

角館小学校、中川小学校、白岩小学校児童・職員およそ100名、そして保護者・地域の皆さん70名ほどの参観がありました。

午後1時45分、選手入場、オーケストラ部の華麗なる演奏に合わせて、野球部を先頭にかけて大きく行進が始まりました。

一斉に整列。開会の言葉が話され、その後、ドラムロールと一緒に室内花火が発射され、会場の雰囲気を一気に盛り上げました。

その後、全員が座り、強化練習中の各部の練習風景の写真、そして各部の部長・監督から選手へ

の激励の言葉のムービーを鑑賞しました。



その後、生徒代表激励の言葉として、鈴木遥香さんからスピーチがあり、そして校長激励の言葉でした。校長あいさつの中で、最後に応援歌の1番、3番、4番を英会話部の生徒達と一緒に歌いました。

次に、先生方の渾身の激励パフォーマンスが始まりました。3年部を中心に、笑いと勇気を与えてくれるパフォーマンスでした。

そして、いよいよ全校生徒・職員による応援です。

応援が終わってから、各部代表あいさつ。どの部の主将も、大会にかける意気込み、そして熱意が伝わるスピーチでした。

いよいよくす玉を割る時がやってきました。生活福祉部の皆さんが丁寧に作成してくれたくす玉が開き、中には健闘を讃える垂れ幕の数々が選手全員を激励しました。

閉会の言葉とともに選手退場。最後の最後に各部の意気込みを選手が全員で体育館中央のステージで行いました。

全て終了したのが午後3時15分。90分間の熱い角中ワールドに小学校の校長先生たちも笑顔で帰られました。

このような素晴らしい企画を行ってくれた生徒会執行部、科学部、生活福祉部、英会話部、美術部のそれぞれの皆さん、本当にありがとうございました。

また、かけつけてくださった小学6年生・職員の皆さん、保護者・地域の皆さん、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



2015生徒会テーマ 掲げる

今年度の生徒会テーマが先週の土曜日に学校に掲げられました。

限界突破～学び合おう 高め合おう 希望あふれる未来に～

このテーマの下、生徒会は今年も奮闘いたします。



総合的な学習の時間 ～樹木医のお話を聴く～

先週の木曜日に、樹木医の黒坂登さんをお迎えして、「角館の桜を追究しよう」というテーマの下、桜のお話を伺いました。

2・3年生同時開催となった集会を、各学年ともに、学年報で紹介しましたので、その文章を転載いたします。

◇2年部通信「紅駿」6月12日No. 11から

黒坂氏の講話内容（抜粋）

桜の木は、空洞でも生き続ける。しかし、強度が弱く、風で倒れるときがある。また、ソメイヨシノは、テングス病になりやすく、特に湿った所で感染しやすい。感染した部分は、花が咲かず、葉っぱしか生えなくなる。薬などで治療することはできず、枝を切るしか治す方法はない。また、野鳥であるウソは花芽を食べてしまう。1つのつぼみに4～6個ぐらい花が咲くが、ウソは枝の上部から食べてしまい花が少なくなる。毎年横町橋方面からウソを追い払うようにしている。今年は、2割程度の食害を受けた。

角館のシダレ桜（枝垂桜）は、秋田藩主の一族佐竹北家義隣氏が、角館を統治した際、京文化移入の一つとしてシダレ桜の苗木を運び、植えられたという説がある。1900年に外町から延焼した大火で武家屋敷の桜は焼失した。それでも植栽されたり、残ったシダレ桜が町内で約400本あった。この中の153本が昭和28年に秋田県の天然記念物指定を受けた。桧木内川堤の桜は、昭和8年に古城山西南麓から内川橋にかけて約2kmの堤防が完成し翌年植えられた。角館の桜は今では、両方とも国指定になっている。弘前の桜とよく比較される。管理体制や予算は弘前の約100分の1だが、一生懸命手入れをしている。

桜を維持・管理していくためには、生育環境が大事である。根がよいと地上の木や花も良くなる。根の周りが踏み固められると空気が入らないために根の呼吸ができず、桜が弱る。できるだけ土が踏み固められないように土壌の管理をしている。

最後に、

「みなさんがどこへ住むにしても角館の桜を誇りにして語り継いでほしいです。また、桜の管理を引き継いでくれる人も出てほしいです。」と、角中生に期待を込めたメッセージで講話を締めくくりました。

◇3年部通信「青嶺～私がやります～」 6月12日 No.13から

講話会を終えて

平岡陽菜さん
今日は、講話会で角館にいらながらも今まで知らなかったことを聴くことができよかったです。桜は「根」が一番大事だということを知りました。『テングス病』という木の病気もあって、『枝を切るしか治す方法がない』ということにも驚きました。他地域から来られるお客様に喜んでもらえることがうれしいというところが『すごく良いなあ』と思いました。私たちも、この講話会を通して分かったことがたくさんあるので、桜を綺麗に咲かせられるように、『何かができたらなあ』と思います。

金野淳平さん
自分は黒坂さんの講話会を終えて、自分が知らない桜のことについて知ることができたので、良い機会だったと思います。昭和47年に桧木内川が氾濫し、一時桜を伐採する計画があったということは、無いのだと思っていました。桜の種類も350種類以上あるということにも驚きました。今までは、5種類くらいと思っていましたが、そんなにあるとは思いませんでした。すごく身近にある『桜の木』ですが、自分はそれが大好きなので、もっと詳しく調べたいと思います。気になっていたことも少し分かったので、良かったです。

なお、2年生は、翌日の金曜日に黒坂樹木医の先生に自由質問という時間を設けて、更に桜についての疑問を説明しました。来年の4月に、観光客の皆さんに、「桜案内人」としてきっと活躍することができることを期待しております。



PTA整備部員の皆様 ありがとうございました。

6月12日(金)の放課後、PTA整備部による花壇作業がありました。9名の保護者の皆様が来校され、プランターへの花植えを行ってくださいました。整備部員の皆様におかれましては、本校の環境を整えてくださり、誠にありがとうございました。

